

# 憧れは89歳のおじいさん／私たち僕たちのヒーロー

6月25日(木) 年中クラスの子どもたちが青梅を収穫するため、松島の忠農園を訪ねました。

一昨年の同じ季節にも、当時の年中児たちが梅干し作りのため、忠太郎さんの里山を訪ねています。

旭ヶ丘幼稚園では、子どもたちの「やりたい」「知りたい」を実現するため、本物に触れる機会を大切にしています。それは、人も同じです。専門家の話を聴くこと、体を通して体験することこそが重要です。89歳のヒーロー忠太郎さんは、子どもたちの生きた体験、身をもった経験に大きな衝撃を与える存在です。



園児と梅狩りをする阿部さん(左)

仙台市青葉区の旭ヶ丘幼稚園の園児たちには、憧れの人がいる。「何でも知っているちゅうたろうさん」こと、宮城県松島町の農業阿部忠太郎さん(89)だ。阿部さんが所有する約6畝の土地には山と畑が広がる。タケノコ狩りや里山探検など2015年から園児を受け入れ、コマや野菜作りの先生も引き受ける。

## タイム 園児憧れる農業博士

### 宮城・松島のちゅうたろうさん

6月25日には年中組の12人が「梅干しを作りたい」と訪れた。初対面だったが、バスを降りると阿部さんに一目散に駆け寄った。「年長の子から阿部さんのことを聞いていて、会おうのを本当に楽しみにしていた」と遠藤裕美園長は言う。

阿部さんが木を揺らして青梅を落とすと歓声を上げて拾い集め、梅干しの作り方を熱心に聞いた。七夕飾り用のササを切り出し、縄で縛る様子にも興味津々だった。「格好いい」と舌を弾ませる榎金晴乃ちゃん(4)に、阿部さんは照れ笑い。園児たちは帰りのバスの中で「梅干しパーティーを開いて、ちゅうたろうさんを招待しよう」と盛り上がったという。

(生活文化部・越中谷郁子)

今年の子どもたちは、先輩たちが作り、ふるまってくれた思い出の梅干しのほか、梅の味噌漬けやジャム作りも自分たちでやってみよう！それを園のみんなに食べさせたい！！とクラスで話し合いを重ねました。

大きくて、鮮やかな黄緑色のたくさんの梅を持ち帰り、早速、梅仕事に取りかかります。実の収穫に始まり、お天気の様子を窺いつつ、天日干しの日を決めるなど、自然との共同作業です。この夏の土用は、梅雨の長雨で天日干しを断念しましたが、翌日からの晴天をうけ、預かり保育に来ていた年中児3名が丁寧に干し方作業を行いました。三日三晩干した後、夏休み前にクラスみんなで漬けた「赤しそ」にしっかり浸からせ重石をのせて、今は静かに、ゆっくりと味、色、香りを馴染ませています。

「待つ」という作業が、子どもたちの期待や楽しみをいっそう膨らませているようです。